

家庭との連絡

—(2)—

幼稚園と家庭の連絡

—その方法と具体例—

松村光子

(一) 連絡簿による連絡
(二) 家庭訪問或いは幼稚園参観又は母の会を通しての連絡である。

幼児保育の一環として幼稚園と家庭の連絡の重要なことについては、今日まで屢々いわれてきた。幼稚園と家庭が等しく幼児の教育にあたるからには、教育方針を一致させる必要がある。そのためにはお互いの連絡をより一層緊密にしなければならぬ。

いま、幼稚園と家庭との連絡について考えると、およそ次の三方法が思い浮ぶそれは、

(一) 子供自身による連絡、

なっても幼稚園や家庭の意図を完全にはつたえがたい。もっとも伝達の内容によつては、年令、知能の程度などにも左右されるが、幼児の言語伝達に頼つて成功する場合がある。例えば、幼稚園から家庭に対しての連絡で、「明日は遠足です。持つてくるものは、お弁当と水筒です」という程度であれば四才児でも大体伝えることができる。「明日は遠足です。雨が降ったらやめて、お弁当は幼稚園でたべます」という程度のもので、五、六才ならば大体意味の通る伝達をすることが出来る。

ある子供についての経験であるが、「せんせい。きょうはね、私、よそへいくからお母ちゃんがお弁当がすんだらすぐ帰ってきなさいっていったの」と、朝から何度も気懸りそうにいった。それで、家庭からの連絡は別になかったが、子供のいうことをとり上げ連絡の紙を持たせてかえした。次の日母親から「昨日はどうも。朝ちよつと、お昼からよそへいく

といったきりでしたのに早く返して頂いて」と非常に恐縮した連絡を貰ったことがある。これなどは、幼児が、よそへいきたいという気持(欲求)と親の話した言葉とが都合よく結んで、連絡の形となったのであるが、子供自身を通しての連絡にあたっては、子供の欲求の在り方をよく見抜いておこなう必要がある。

(三)の家庭訪問或いは幼稚園参観(見学)又は母の会による連絡は、直接的であるという点で望ましい方法ではあるが、保育者と保護者との対人関係。訪問時間の点等である問題が生じやすい。両方の都合のよい時間を選んでわずかな数の先生と、多くの父母と連絡することには無理があり、また、訪問をするほどのことは無いが、知らせたいことがある場合も多い。まして、家庭訪問が保育者と保護者との私的なゆがんだ話し合いを強めることとなったり、保育時間にかわるがわる見学者が出入りすることになっては保育上にもさしさわりの多い。そこで(一)あるいは(二)による連絡の不十分を補うものとして、(三)にあげた連絡簿の使用がおこなわれ、効果をあげてきている。もとより、連絡簿の主な目的は、幼稚園と家庭とが緊密な連絡をとり、幼児一人一人に対する教育、保育の実をあげることにある。

家庭から「今日は少し機嫌が悪いようで御注意頂きたい」という一行の連絡。

幼稚園から「今日はハンカチを忘れていらっしやっただので困っていらしたようです」という連絡などが、幼稚園での子供の様子や、子供が何か不満な気持で帰宅した理由を理解するたすけとなる。

その他、身体検査・智能検査の結果などを記入し、幼児の身心の発達を正確に記録して父母と先生たちが、それにもとずき話し合う上にも、連絡簿は大きな働きをする。こまかい金銭に関するものも、連絡簿を通してはつきりさせることができる。

以上述べたことは、幼稚園と家庭の連絡についての一般的ななことであるが、次に、渋谷・鶯谷さくら幼稚園で使用している連絡帳について述べよう。

(1) その目的

幼稚園と家庭との緊密な連絡により、幼児の保育に万全を期すことと、その子の幼児期の過ごし方の特徴を記録し合ってお互いに理解を深める。それによって、幼稚園と家庭との親密さをますことに役立てる。この帳面を大事に扱うことによつて子どもたちが、子供たちのために努力している人たちの真面目な気持に自然にふれていくことをねらう。

(2) その方法

大型ノートを用意し、上の頁は家庭より、下の頁は幼稚園よりの記録用とする。このノートは幼児が毎日もちこ

とを建前にしているが、必要な時は幼稚園なり家庭なりに一両日おくことがある。長い休みの時は、主として家庭におく。

(3) その内容

〔家庭よりの頁〕入園までの幼児の身体的な記録（例えば病歴であるとか、身体的に特別注意していること）精神的な記録（例えば、性質の特徴、知能に関する記録など）更に、入園後の変化、在園中の心身の成長発達の具体的記録、幼稚園に対する希望・感想・意見・質問などを記録する。また、幼児期にしかみられない子供らしい面白い表現を記録する（例えば、煙は足も羽もないのにどうして空へ上ってゆけるのだろう。四才児）。更に、日々のこまかい連絡、金銭に関する連絡（例えば保育料やその他を子供にもたせた場合記入して貰い、こちらで受領を記入する）によつて、間違いをなくすことに役立つ。

〔幼稚園よりの頁〕

(イ) 幼児一人一人について主として担任の保育者が観察・記録する。

入園当初の感想、その子供に關した出来ごとの記録、家庭よりの質問に対する答え、在園中の成長発達の記録、交友状態の記録、智能検査、身体検査の結果及びその状態の記録など。

(ロ) 幼稚園の全体的なうごきの印刷連絡をする。今週の

幼稚園」というたよりを毎週つくり、その週に行つた保育内容を書き綴り、子供達の遊びの状態、或は歌詞などを印刷し貼布する。また、園内での落し物、忘れ物、なくし物、伝染病の発生箇所等について各家庭で注意して貰うなど、こまかい事であつても全体に注意したい連絡を印刷し貼布する。

(4) その扱い方

「T子は昨日、私が買物に行つていて間よくお留守番をしてくれました」と母よりの連絡がある。子供達の前でそれを聞いて読む。「T子ちゃん、えらかつたのね。皆でほめてあげましょう」パチパチと友達から賞讃の拍手が湧く。T子ちゃんは如何にもうれしそうにここにこしている。次の日連絡帳を順にあげてみると、おや、S夫ちゃんもY子ちゃんも母から連絡がある。「S夫はお夕食のおぜんごしらえをしてくれました」「Y子はいつもはあまりいきたがらないのに、今日はよるこんでおつかいに行つてくれました。そして、連絡帳に書いてとしきりに申します」このようなほほえましい記録がかわるがわるに頁をにぎわす。

「今日はM郎ちゃんにお当番さんになって頂きましたら、とても一生けんめいお手伝いをして下さいましたから、お家でもおほめ下さい」という連絡を幼稚園からする。次の日、M郎ちゃんは一日中うれしそうである。きつとお家でほめられたのでしよう。その行動が目に見えて潑刺としている。

言語表現の不活潑なN子ちゃんのことを心配した家庭からの連絡があった。そこで相談し合い、園内で、Aの先生からBの先生へ、Bの先生からCの先生への連絡を、この子にしてもらった。簡単なおつかいを言葉でいうようにしたわけである。すると、声は小さいけれど意味の通じる伝達ができた。そのことを、家庭に知らせる。家庭ではN子ちゃんをほめた。これを数回くり返して続けた。N子ちゃんは次第に自信を得てきたようである。言語活動が急には活潑にならないけれども、話したそうな目の輝きが見えてきた。もう一息！と思う。

「せんせい、何かいてるの」と寄ってくる。「あしたはおやすみですってかいているのよ」「そんなのやさしいね、ぼくにもかかしてよ」「そうひとりでかける？」「かけるさ。」書きたいという子供たちに鉛筆を渡す。暫くしてから連絡帳をみる。たどたどしい鉛筆の運びで紙一ぱいにかかれた大きな字、はじめの方にひとかたまりにかいてある字、逆字もある。字のかきはじめ。これをいつかこの子供達が、大きくなっって見るときもこよう。就学前のひととき、感慨無量である。

(5) そのあとに

入園時に各保護者と連絡帳の目的、使い方についてゆっくり話し合った。もし、私達の幼児期の記録が今に残っていたら、先生による記録、父母による記録、はては幼い自分の記録が一つのノートに納まっていたとしたら。父母に対する感謝の気持、先生に対する親近感がよみがえり、或いは、自分の子供に対する教育観の再認識などに役に立っていたのではあるまいか。もとよりこれは保育者にとっても、保護者にとっても一方ならぬ大仕事であるとは思ったが、このような気持で始めたのがもう丸七年になろうとしている。幸い、今まで各保護者の熱心な支持を得、先生たちの真剣な協力を得て各家庭に思わぬ感謝をいただいている。

忙がしい家庭の主婦として連絡帳を開いたひとときを、子供の教育について考えることが出来て如何にもうれしく、感謝しているという母親。

常日頃、家庭教育は母に任せ、学校に上。たら学校任せであった父親が、下の子供を幼稚園に連れてからこの連絡帳に興味をもち、とうとう丸二年間休まずに子供の記録をして下さったこと。

父、母がかわるがわるに、子供について、或いは親としての悩みやよろこびを書き綴つて下さったこと。

連絡帳が新しくなるたびに、第一頁に愛し子の写真をはり、心のこもったよびかけの詞が書きつけてある。それを読んだ時は思わず胸一杯になつたこともある。

「Oちゃんが一番大事なものは？」と聞いたとき、「お人

形「電車」とか答えた中に、「れんらく帳」と答えた子供がいた。その父親も母親も熱心に記録を続けて下さっていた。あの子が学校へあがって二年目に父親がなくなった。連絡帳の筆跡が目に残る。

一年、二年、と続けて記録されるノートは数冊に及ぶ。この重ねられたノートを見た時、幼稚園での生活が無意味に過ぎられなかったというよるこびがしみじみと湧き、再びかえりこない幼児期を大切にしたいとあらためて思う。

(6) その反省

当園で行っている連絡帳のあり方についても幾多の御批判はあると思う。毎朝、子供のもってきた帳面を全部開けて連絡を読み、急いで返事を記入するとき、至急な印刷を朝貼る場合など、時間と手がかるとほしいとしみじみ思う。



母の会にのぞむ

秋 山 ち え 子

私は仕事の関係上（NHK、婦人の時間、「私の見た事、聞いた事」）旅行に出かけることが多いが、その旅先でよく感じさせられ

保育カリキュラムを、避のはじめに連絡しておくことも考えられる。これはしかし、家庭がそれ等の先入観で子供に聞いただすことの害をおそれて現在はやっていない。然し、計画だった保育内容を事前に通知しておくのも、望ましいことである。

また、派生的なことではあるが、連絡帳による連絡の徹底教育に関する諸問題の解決などがものをいって、母の会のあつまりなどでの発言が活潑に行われないうった現象がみられることなどについても、今後更に検討してゆくべきであると思う。

以上の反省も加えて、幼稚園と家庭の連絡につきお互いに研究し合い、よりよいものに進めていきたいものである。

（渋谷鷺谷さくら幼稚園長）

るのは、日本の女の人の社会的訓練の乏しさと云うことである。

之は、私が今更とりたて、て云うまでもなく、色々と云いふるさ